

学生×先生 特別対談 〈学生リーダーの未来像〉



人間心理学科教授
黒崎輝人先生

マスコミュニケーション学科1年
広島里奈

情報文化学科4年
佐藤創

マスコミュニケーション学科1年
西尾友花

学生リーダーになったきっかけ

佐藤 「じゃあ、まず自己紹介から」

黒崎 「皆がどういうキッカケで学生リーダーをやることになったのかも教えてよ。」

西尾 「はい。西尾友花です。きっかけは林先生の推薦から。林ゼミということもあって、推薦されて学生リーダーになりました。」

広島 「広島里菜です。学生リーダーに入ったきっかけは、先生からの推薦ではなくて、2年の先輩に『学生リーダーにならない?』と誘われて、人前に出て喋る機会がほしくて、『やりたいです』と伝え推薦していただきました。」

佐藤 「佐藤創です。ぼくの入ったきっかけはちよっと変わっていて、だ

れかの推薦ではなくて、間違いで入っちゃったんですね(笑)。大学一年の終わりのころ、自宅に学生リーダーの合宿の案内が届いて、「なんだこれ」と思って、大学でゼミの先生に聞いたら、本来は名簿の一人後ろの佐藤に送られるものが、手違いで僕に送られてきちゃったんですよ。それから学生リーダーになることになりました。」

黒崎 「そうだったな。(笑)」

佐藤 「今となっては、佐藤って姓でよかったなって思いますよ。(笑)」

学生リーダーに期待すること

佐藤 「黒崎先生にとって学生リーダーはどのようなようになってほしいですか？」

黒崎 「我々教員でよく話しているんだけど、うちの大学で学んだらこういう人間になれますよ。という見本手本になってほしいな、というのが1つ。もうひとつが、大学を卒業した人に期待されている、管理職、リーダー、というもの。今言ったことを合わせると、社会人としてまともな働いて、しかもリーダーになれるような、そういう人間になってほしい。これが学生リーダーに我々が期待していることなの。」

西尾 「なるほど、なかなか大変そうですね。」

佐藤 「1年生は学生リーダーでやり



たいことってある？」

廣島 「学内に対しても露出を増やすべきだと思います。学園祭とか、オープンキャンパスとか。」

西尾 「せっかくのイベントなので、学生リーダーを中心に全体を巻き込んでいけたらなと思います。そうすれば大学と専門の団結もできるんじゃないかな、と。」

やないかな、と。」

廣島 「あとは、他学科との交流も少ないと思いますし、子供達とか地域全体を巻き込んだ行事とかもできたらいいですね。」

黒崎 「学生リーダーとしては、学科を超えた存在であってほしいとも思っているわけね、学校全体のことを考えていけるようなね。だから学生リーダーのほうからさ、こういうことをやろうっていう提案をどんどんしてほしい。ただ仕事は増えるぞ？」

廣島 「人も増やしてほしいです。(笑)」

西尾 「学生のモチベーションをあげられるような企画を、私たち学生リーダーが考えられるよう頑張りたいですね！」



これまでの学生リーダー

黒崎 「佐藤創はね、一つの典型になっていると思うの、見本にね。」

佐藤 「なれていきますかね?」

黒崎 「そうだよ。お前がなれてなきや困るよ。(笑) ものを考える発想力とか、それを実行に移す行動力とか

そういうものが活動で出てきたよなあ。」

廣島 「他にどういいう学生がいましたか?」

黒崎 「今年卒業したリーダーたちは、一人一人すごく个性的で変わっていた気もするな。具体的に言うと、飲食業界に就職した先輩がいて、彼は学生リーダーをやってすごく伸びたなあ。最初見たときは学生リーダーどころかちゃんと卒業できんのかって感じだったんだけどさ。(笑) 他の友達や、リーダーとやっているうちに、彼は一番力つけてったんだよな。」

佐藤 「学生リーダーをやってきて、成長した学生って多いですよ。僕も含めて。(笑)」

黒崎 「そうだな。そういう感じで、自分が活動していく中でどういいう能



力を身に着けるか、何が出来るか、学生リーダーにはそれを考えてほしいわけ。言い換えれば、これだけには人にも負けないものをなんか見つけていってほしいってことだな。」

廣島 「これだけは負けない・・・。できるかな。(笑) 頑張ります。」

西尾 「難しい話ですね。でもそういうものを作れば強い武器になりますよ。私も作りたいです。」

黒崎先生から学生リーダーにメッセージ

黒崎 「やれと言われたことをやるだけじゃなくてね、自分でやることをちゃんと探してやっていってほしい。加えて学生リーダーとしてひとつ、一般論として考えてほしいのがね、ジリツってことなの。ジリツって、自分で立つ【自立】と自分で律する【自律】の二つあるよね。」

黒崎 「どちらのジリツでもさ、最近の若者は年上の意見を聞かないことをジリツだと思っている節があって…。そうじゃないんだよね。でも何をすればよいか、何をしちゃいけないかというのはどうしてもある。そこも含めて、先生たちと話し合い

ながら、自分たちで考えて、自分たちで行動できるようになってほしい。ただし、それは上のことを全部無視してやるんじゃない。上が納得するようなことをね、できるだけ提案していくっていう事が大事だと思うの。その提案力がたぶんね、社会人として就職したあとも、大事になっていくはずなんだよね。」

対談を終えて

廣島 「今回の対談で、学生リーダーとは何か、何をすべきか、曖昧だった部分がハッキリしました。ほかのメンバーとも話し合って、少しずつでも、今回出てきた課題をクリアできよう頑張ります。黒崎先生、先輩方、ありがとうございました。」

西尾 「自分の理想とする学生リーダー

像がどうあるべきかを考えることができた対談だったと思います。貴重なお話ありがとうございました。」
佐藤 「一年生の意欲的な言葉を聞けて安心しました。これからの学生リーダーが楽しみですね！」

高野 「この場をお借りして自己紹介します。この記事の編集責任者と力メウ担当だった人間心理学科3年の高野竜太郎です。対談をコンパクトにまとめる作業がこんなにも大変だとは思っていませんでした。この対談を通して、学生リーダーがこれからどうしていくべきなのかを考えるいい機会になったと思っています。」